

「今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）」記録要旨【久慈ブロック】

平成27年5月28日（木）

洋野町民文化会館 コミュニティホール

【中居 久慈市副市長】

- ・久慈市における人口減少の問題は、地域活性化の大きな課題となっている。人口減少への取り組みとして結婚、子育て、雇用創出と様々な取り組みがあるが、どれか一つを解決すれば課題が解決されるということではなく、様々な視点から施策を講じる必要があると考えている。また、行政のみで何とかなる問題ではなく、地域企業との連携が必要と考えている。
- ・県央から遠い地域にある久慈地区において、高校教育の質が担保されることは重要であると考えている。
- ・地域づくりを考えると、若者が他の地域に流出することなく地元で仕事を見つけ、結婚し子どもを育て、地域を愛し、地域を盛り上げていくことが大切であり、その環境づくりのために高校は不可欠である。
- ・久慈地域では医師をはじめ看護師等、医療従事者の確保が重要と考えており、従来行ってきた医師希望者への奨学金制度に加え、看護師への奨学金制度を今年度から始めたところ。
- ・地元への就職を希望するような生徒を育てる教育が大切と考える。専門高校と誘致企業を含む地元企業との連携を図り、子ども達と雇用主のニーズを分析したうえで地域に根差した学科の創設等を検討すれば、若者の地元定着につながる可能性が高まるのではないかと。
- ・老朽化の著しい教育施設もあり、誇りの持てる教育環境の整備も重要と考えている。

【水上 洋野町長】

- ・小規模校に地域の特長を生かした学科を設置することで、生徒が集まるのではないかと。
- ・種市高校の海洋開発科に専攻科を設置する等、全国から生徒が集まる方法を考えていただきたい。
- ・どのような方法をとったら、小規模校がよりよくなるか、県教委の考えを聞きたい。

【佐藤 野田村副村長】

- ・久慈地区は、普通科・総合学科・工業科・総合学科の水産系列と、小規模ながらバランスがとれ機能分担がはっきりとした高校の配置となっている。
- ・野田村では、高台の造成が進み災害公営住宅等の建設にも着手しており、ここ1～2年で復旧復興の目途が立つと考えている。しかし、地域全体を見ると、復旧復興事業はまだまだこれからであり、その中で久慈工業高校にある産業人材を育成する学科については、存続させる必要があるのではないかと。また、復興の次のステップである地方創生や地域経済の活性化のためには、様々なものづくり産業に従事する人材の育成が必要であり、将来を見据え小規模校が存続していけるような体制を考えていく必要があるのではないかと。
- ・野田村では高校生への支援として、三陸鉄道を使って久慈工業高校へ通学する生徒、あるいは村内の生徒が村外の高校に通学する場合の定期代について、一定割合で支援する制度を設けている。地域として必要な高校を存続させるために、様々な知恵をだしていく必要がある。

【柗屋 普代村長】

- ・中学校卒業生数と学級数の推移について説明を聞き、将来を担う人材を育てるために高校教育の質の保証と機会の保障について、ブロック全体で取り組む必要性を強く感じた。（次頁に続く）

- ・「今後の高等学校教育の基本的方向」では、小規模校への配慮、定員についても様々な視点で検討することを明記していることに感謝している。この内容が高校再編計画に生かされていくことを期待したい。
- ・地域との連携について、新たな地域の雇用創出とか、地場製品の開発、販路の拡大等にもっと高校生のアイデアを取り入れることで、より地域との連携が深まると考えている。また、そのことが地域に根差した人材の育成にもつながると考えている。
- ・地域の文化伝統の保存・伝承活動を高校教育にとり入れていくことも、今後より必要ではないか。

【加藤 久慈市教育委員会教育長】

- ・岩手県の施策として、県北・沿岸地域から大学へ進学できる体制を整えるための支援をいただいている。久慈地区の生徒は、他の地域の高校に進学し下宿しながら学ぶということはほとんどなく、地元の高校から大学に進学できるようになってきている。
- ・大学進学に対応するためには、一定の学校規模が必要である。教員の配置は学校規模により決まるため、専門の教科指導ができる教員を揃えたしっかりとした進学体制をとるためには、ある程度の学校規模が必要であり、その規模を持つ進学校が地域にはぜひ必要である。
- ・教育機会の保障について、久慈地区では普通科、総合学科（農業・水産・商業・家庭・福祉）、工業科（久慈工業高校・種市高校海洋開発科）があり、ほとんどの職業教育ができる体制が整っている。高校進学を目指す生徒にとって、望ましい環境にありこの形を残すような学科の編制をお願いしたい。

【浜道 久慈市漁業協同組合専務理事】

- ・子どもの数が少なくなる中で、高校再編についてはある程度やむを得ないと考える。
- ・久慈地区には、水産から農業まで専門教育が学べる環境にある。去る5月22日に県北広域振興局が主催した「あま養成講座」があったが、地元産業等を学ぶことは必要であり、地域に現在ある学科の特長を生かした高校再編の検討をお願いしたい。

【関根 洋野町農林水産業関係者代表】

- ・企業経営者の観点から、生徒数が減少し現状を維持するのが難しいのであれば、学校を減らしていくのは当然である。しかし、減らす前に考えることがあるのではないか。
- ・大学へ進学させるためには普通科が必要というが、ただ普通科を設置すればいいということではない。設置する以上は、例えば、国立大学に進学させる、あるいは医師を目指す生徒を育てるといった、目的を持った設置が必要ではないか。
- ・中小企業は人手不足で困っている。専門高校でこれまで以上に生徒のスキルアップが図れるような学科を設置することも必要ではないか。
- ・種市高校の海洋開発科には、日本中から生徒が集まっている。特長のある学科を作ることによって他の地域からも生徒が集まってくるのではないか。高校の統廃合の前に、そういう特長のある学科の設置を考える等、高校再編への取り組みの順番を考える必要がある。

【小野寺 新岩手農業協同組合代表理事専務】

- ・久慈地区の高校でなければ学べないといった、特長のある学科を設置してほしい。
- ・ボランティア活動を通じて、地域を守る意識、地元で根差した仕事をしたいという意識が高まるのではないか。
- ・高校をいきなり減らすのではなく、市町村と連携し中高一貫教育校等の検討もお願いしたい。

(次頁に続く)

- ・高校生の離職率についても基本的方向で触れているが、勤務している職場の状況を見ると、大卒者よりも高卒者の方が長く勤務している。高校教育で、「知・徳・体」をしっかりと教育すれば、就職しても頑張っていけるのではないかと。

【砂子 久慈商工会議所専務理事】

- ・各自治体では人口ビジョンを策定し、国においても人口1億人維持の目標を掲げている中で、その施策と整合性のある検討が必要ではないかと。
- ・各論として、特に岩手県北沿岸地域は地理的要因に配慮した再編計画が必要である。また教育課程では、やる気のある人材、あいさつのできる人材、一方では社会性を持った人材の育成も必要になってくる。
- ・商工会議所が事務局を担当し社会奉仕活動として、つつじ植栽事業と草刈清掃活動を本日（5月28日）午前に行い、久慈東高校の生徒が参加した。様々な事業を通して社会性が育ち、地域への愛着と地元定着につながるものと思っている。

【平船 洋野町商工業関係者代表】

- ・久慈地区は、将来的に望ましい学校規模とされる4～6学級校が2校あれば十分なくらいの生徒数になり、現状の高校配置のままでいくと、小規模校だけになってしまう可能性がある。
- ・大野地区では、高校と地域との連携があり、地域の伝統文化の継承等がうまくいっている。グローバル人材の育成に高校がどのような役割を果たしていくのかということ考えたとき、学力をつけるだけではなく、地域の特色ある文化の伝承も見据えた高校教育の在り方を検討してほしい。
- ・企業経営者の観点から、現在、即戦力となる人材の確保が難しい状況にある。社会性を身につけた人材の育成を高校教育にはお願いしたい。
- ・洋野町では、大野高校の生徒で町外から入学する生徒には下宿に係る経費への補助を行っている。地域住民の小規模校に対する想いを汲んだ高校再編計画であってほしい。

【中野 野田村商工会会長】

- ・生徒の減少は避けられない。専門学科高校の在り方や学校規模について、地域の産業振興を考えた高校再編が必要である。
- ・高校がなくなると地域が衰退する。地域としても人材を外に出ないように、企業の誘致を考える必要がある。
- ・県央部等、周辺地域から生徒が転入するような再編が必要である。統合は免れないことは分かるが人財を地域の宝と考えた高校再編であるべきだ。

【上神田 普代村商工業関係者代表】

- ・久慈ブロック内の生徒数の減少を見据えて高校再編をするべきことは理解する。しかし、生徒の数という数字だけに対応した再編となつてはいけない。
- ・小規模校の地域における重要性を軽視してはいけない。資料No.3（基本的方向の概要版）にあるように、学校と家庭、地域や産業界との連携を重視した高校再編になっていかないと、基本的方向の方針から外れることになる。
- ・小規模校を存続させるだけでなく、教育の質の維持と向上への対応も考えていただきたい。教員の配置、特別な支援が必要な生徒への対応、高校再編については、生徒数の減少を要因とするだけでなく、教育の質の保証も重視した再編となるように考えていただきたい。

（次頁に続く）

【吉田 久慈市立侍浜中学校PTA会長】

- ・基本的方向では子ども達を「人財」と表している。将来、地域の担い手となる人財を育てる観点で高校再編を考えてほしい。
- ・教育への投資は、将来、地域を担う子ども達への投資になる。コストはかかるが、人財、地域の宝をつくることを基本に高校再編を検討してほしい。
- ・生徒数が減少し、現状の維持が厳しい実態はある。しかし、高校は地域の重要な施設である。高校生が地域にいなくなると、地域活性化のブレーキになってしまう。地域の意見を聴き、現在設置されている高校を存続させる方向で考えてほしい。
- ・小規模校における多様な教育について、学校の規模が小さくなると教員の配置が難しくなることは分かるが、TV会議による遠隔授業の検討等、小規模校でも多様な教育が受けられるような方法を検討してほしい。

【番沢 洋野町PTA連合会会長】

- ・PTAの研究大会に参加したときに、小規模校の事例発表があり、地域と密着し特色ある取り組みをしている姿を感じた。高校でもそれぞれの特色を生かした活動を全国に発信している学校もあり、小規模校に配慮した再編としてほしい。また、県北沿岸地域の振興の観点からも、県教委として支援をお願いしたい。

【晴山 野田村立野田中学校PTA副会長】

- ・現状の高校の維持が希望であり、高校の選択肢が狭まることのないようにしてほしい。
- ・野田村には久慈工業高校があり、企業と連携し様々な取り組みに参加している。体験入学では、企業が高校に作業用の重機を持ち込み、中学生に重機操作の体験をしてもらう等、工業高校と一緒に中学生に興味関心を持ってもらう取り組みをしている。産業界と高校が、今まで以上に連携できる体制をつくってはどうか。

【佐藤 普代村立普代中学校PTA会長】

- ・子どもたちが進学する際に、高校の選択肢が狭まることのないよう、教育の機会均等に配慮した高校再編の検討をお願いしたい。

【麦澤 洋野町教育委員会教育長】

- ・県教委として、教育の質の向上と充実に取り組んでいただいていることに感謝している。
- ・地域の宝である子ども達（人財）を大切に育てるとともに、その子ども達が地元に残って、地域の将来を担ってほしいと思っている。
- ・昨今、人間関係をうまく築けない生徒が増えている。ある程度の学校規模で切磋琢磨し、自分を磨きながら相手の良さを知り、尊重する様々な経験を積むことも大切である。小規模校のメリットは理解するが、若い時に切磋琢磨できる環境が必要だ。
- ・高校教育に対しては、多様な進路選択に対応できる内容を期待したい。また、子ども達が県外に進学しても、将来は地域に戻ってくるような愛郷心を育てる高校教育にも期待したい。
- ・経済的な理由により、希望する高校にいけない生徒がいるかもしれない。また、通学手段の不便さから希望する高校にいけないこともある。そのような生徒に対し、市町村も様々な支援等に取り組むと思うが、県教委としても、通学に不便のないような対策を講じてほしい。そうすることで、生徒は楽しい高校生活を通じすばらしい人格を形成することに繋がる。教育環境の整った高校で学ぶ生徒の姿を期待したい。

(次頁に続く)

【大崎 野田村教育委員会教育長】

- ・「今後の高等学校教育の基本的方向」について、地域の意見を尊重した内容であり、具体的再編計画策定にあたっては、資料No.3に示された改訂の4つのポイントを反映したものであってほしい。
- ・大学進学希望の多い普通高校においては、地域の人材育成と地域の中心校としての役割から、1学年の学級数の適正配置による指導体制の充実をお願いしたい。
- ・就職希望の多い総合学科高校等については、生徒の多様な進路希望に対応できる体制の確立をお願いしたい。
- ・専門学科高校については、将来の地域の産業を支える人材育成のため、その存続に県教委の特段の努力を期待したい。また、専門学科高校から大学進学に対応できる教育体制の構築をお願いしたい。そのことで、地域の人財として活躍したいと願う生徒の将来を保障することになる。
- ・資料No.4で示された地域の現状と地域の置かれている高校教育の役割を総合的に判断し、現在、久慈ブロックに設置されている高校の存続をお願いしたい。
- ・人口減少は避けては通れない。今後、10数年先を見据えた高校再編となるとのことだが、例えば、平成40年頃には、その時点での現状分析をしたうえで、将来像を決定していただくことで望ましい在り方を模索できるのではないか。

【三船 普代村教育委員会教育長】

- ・村内の小中学校では復興教育に力を入れている。震災前は、高校や大学に進学した生徒は、地域に戻ってこることがあまりなかった。しかし、震災後は将来、普代村の力になりたいと考える生徒が少しずつ増えている。地域を知る教育が進む中で、子供の心に変化が見られる。
- ・普代村の中学生は久慈ブロック内の高校に進学する。久慈ブロックは小規模校が多いものの、バランスの取れた高校の配置となっている。人口減少が今後も進み高校再編が検討される中で、子どもの選択肢が狭まることのないような再編の在り方、県のために力を発揮できる子どもの育成ができるような在り方を考えていただきたい。
- ・小さな自治体は高齢化率が上昇しているが、その中で、子ども達が地域に戻ってくることは重要である。将来、村が存続する意味でも地元に戻ってきた子ども達が仕事を持てるように、広域での企業誘致も含め企業との連携も検討する必要がある。
- ・子どもの数が少ないから統合しようではなく、地域での高校の意義を考えていかないと偏った高校再編になるのではないか。そういうことを含め検討いただきたい。

【関根 久慈地区中学校校長会会長】

- ・久慈地区では、中学校の校長と高校・特別支援の校長が中高進路指導協議会を立ち上げ、年2回、生徒の様子等の情報交換を行っている。
- ・久慈ブロック内で他の学区と隣接する地域（田野畑村・久慈市山形地区）について、学区外入学の見直しについて検討をお願いしたい。
- ・市町村の支援について、支援をすれば生徒が地元の高校に入学するとは限らない。
- ・生徒の進路希望が多様化する中で、高校がなくなることによって生徒の選択幅が狭まると大変なことになる。久慈ブロックにおいては、現在設置されている高校の現状維持をお願いしたい。

【 県教委 】

- ・学区について、現在8学区としているが、市町村によっては二つの学区に属する場合もあり、学区の隣接している地域では、様々な課題があることは承知している。

(次頁に続く)

- ・学区についてはその趣旨は変えないものの、隣接地域の学区外入学について弾力的な運用を行ってほしいとの要望があり、平成 27 年度入試から普通科において、志願者が定員を満たしていない場合に、学区外入学について弾力的に運用することとした。例えば定員 80 人の高校で志願者が定員を満たしていない場合、学区外入学が定員の 10%（8 人）を超えても入学を認める取扱いとした。
- ・学区については、中学生の進路選択に大きな影響を与えることに配慮する必要がある。また、来年度入試で一部選抜の方法が変わることから、その状況も踏まえつつ、学区の見直しについて、高校再編の検討とは別な形で在り方を検討していく必要がある。
- ・皆様からは、小規模校の存続、大学進学を考えた時には一定規模の学校が必要、それぞれの学科の特長を生かした取り組みが必要といった意見をいただいた。また、小規模校の存続とともに、教育の質の維持をどのように図っていくのかという意見もいただいた。
- ・望ましい学校規模を 4～6 学級としているが、それを統廃合の基準とするものではない。小規模校における教育の機会均等という観点を踏まえたうえで、通学の状況等も確認しながら丁寧に検討していかなければならない。
- ・小規模校のメリットとしては、生徒一人ひとりにきめ細やかな指導ができること、地域との連携による卒業後の進路、部活動の成果があること等がある。一方、デメリットとして教員配置の関係から、多様な進路への対応が十分できないといったところもある。大学進学を考えたとき、教育課程に大学入試センター試験で必要な教科の設定特に理科・地歴公民で難しいことがある。また、部活動では、生徒数が少ないことにより、団体競技（野球、テニス等）ができない状況にある等、中学生はそのことを理解したうえで、高校に進学することになる。
- ・中高一貫教育については、生徒数が少なくなると、多くの友達と触れ合いたいという生徒の希望を小規模校でどのように叶えるかということを考えなければならぬ。学校外での交流等も含め、どのようにして県立高校として取り組んでいかなければならないかということもあり、課題解決にあたっては市町村、地域の産業界の協力をいただきながら考えていかなければならないので、様々な意見をいただきたい。

【大崎 野田村教育委員会教育長】

- ・久慈工業高校の取り組みを紹介したい。久慈工業高校の図書委員会が図書館ボランティアとして、野田小学校に出向き、朝の 15 分の時間を使って本の読み聞かせを行った。高校生は緊張していたが、ボランティアに参加してよかったという感想であった。また、小学生は高校生が読み聞かせる姿に感動していた。小中高校の連携の事例として紹介した。

【麦澤 洋野町教育委員会教育長】

- ・洋野町内の二つの高校について、種市高校海洋開発科には全国から生徒が入学してくる。また、大野高校は卓球が強く、県内あるいは県外からの入学がある。しかし、下宿を経営する方々が年配になり廃業している状況にある。学校の近くで下宿生を受け入れることができれば良いが難しい。洋野町として、それぞれの高校に振興会を通して下宿への支援を行っている。